

大阪大学大学院未来共生プログラムでは、博士課程において地域や実践の現場から学ぶことを積み重ねてきました。

今年度十周年をむかえるにあたり、第一弾のセミナーとして、研究と運動をされている梁永山聡子さんと、プログラムにも関わっていたいた、研究と実践を往復されている高橋綾さんが対談する機会を設けました。プログラム関係者はもちろん、大学生、一般の方も大歓迎です。

高橋綾

大阪大学臨床哲学研究室に学び、対話と協働の探求の実践、教育、研究に取り組んできた。大学の外でも、哲学カフェやこどもとの哲学対話、医療者との対話型研修、がん患者との対話、女性支援の現場での対話など、様々な場所において対話を行なっている。対話においては、インクルージョンや多様性の尊重に重点をおき、参加者どうしのケアとエンパワメントの場所を作ることを志向している。専門は臨床哲学・哲学プラクティス、著書・共著に『こどものためのてつがく：ケアと幸せのための対話』『哲学カフェのつくりかた』（いずれも大阪大学出版会）がある。

申し込みフォーム



<https://forms.gle/PfALfR7s75RihJbr7>

高橋綾

Aya Takahashi

大阪大学大学院人文学研究科講師

梁・永山聡子

Satoko・Chongja Yang・Nagayama

差別をなくす社会のためにやってきたこと

研究者でアクティビストが語る

聞きて



右傾化・女性蔑視・差別の

日本の「おじさん」政治



前川喜平
能川元一
梁英聖
梁・永山聡子

梁永山聡子

研究・活動テーマは「ポストコロニアル社会における植民地主義残滓のフェミニズム（旧宗主国と被植民地国におけるフェミニズムの権力関係）。事例として、リプロダクティブヘルツライツ、在日朝鮮人女性のアクティビズム、日本軍性奴隷制問題・解決運動から考察。関東近郊の大学非常勤講師、成城大学グローバル研究センター 研究機構客員研究員、アジア女性資料センター、一般社団法人ふえみぜミ&カフェ、在日朝鮮人人権協会性差別撤廃部会などでも活動。著『ガールズメディアスタディーズ』（北樹出版）、共著『社会学理論のプラクティス』（くんぷる）、『私たちの「戦う姫、働く少女」』（堀之内出版）編集協力：『差別はたいてい悪意のない人がする』（大月書店）共著『ハッシュタグだけじゃ始まらない 東アジアのフェミニズム・ムーブメント』（大月書店）など



開催日：2022年12月18日（日）14～16時

会場：IKUNO・多文化ふらっと事務所

大阪市生野区桃谷5丁目5-37 いくのコーライブスパーク（御幸森小学校跡地）A棟2F

参加費無料・要申込み：定員30人（申込は上記QRコード/URLよりアクセスしてください）